

北海道バプテスト連合ニュース

全道にキリストの光を!

2017年7月発行 No. 111

発行者 田森茂基

編集者 西島啓喜

発行所 〒070-0058

旭川市8条西1丁目1-11

旭川バプテスト教会内

http://hokkaidobap.jimdo.com pw:jbc1947

巻頭言

「クリスチャンの『婚活の集い』について」

北海道バプテスト連合 副会長 李 徳京（平岸教会）

主の御名を賛美します。

1年の中で最も美しい季節になりました。私が北海道に住んで23年目になりましたが、北海道の人々に会って話をすると、みんなが北海道に住むことを大変満足していました

北海道は美しい、北海道はおいしいものがたくさんある、北海道は季節がハッキリしている・・・等々の理由からでした。私も北海道住んでいると、ほんとに自然に恵まれていることを感謝しています。神様が創られたこの素晴らしい季節、豊かさに感動しています。

さて、先週、平岸教会では婚活の集まりがありました。この婚活の集まりは、いくつかの教会の牧師たちが、自分の教会の兄弟姉妹たちに出会いの場所を与えてあげたいという切なる思いから昨年始まりました。色々な理由から出会いがなく、結婚が遅れている人々のために集まりの場を設定して

います。最近では、参加者の中から重荷を持って企画運営をしてくれる幹事たちにより、月一回のペースで毎回進められています。是非各教会からのご参加をお待ちしています。特に、女性たちは20名ほどの方がリストにあげられています。男性はその半数の参加で留まっている状況です。教会に於きましては、クリスチャン家庭が加えられることは、大きな祝福です。どうぞ、ご理解頂きまして、参加を呼びかけて頂きますようお願い致します。

まず、お互いにお付き合いをしたいという意思表示があった場合、先に担当牧師よりその兄弟姉妹の所属教会の牧師にご連絡をいたします。その後、了解を得た後、双方が祈り導きを求めます。

各教会の上に、豊かなる祝福をお祈り申し上げます。

●道南 ブロック集会を終えて ◆◆◆◆◆ 女性信徒の会会長 本多依子（函館教会）

去る6月10日（土）函館教会にて、女性信徒の会道南ブロック集会が開催されました。室蘭、苫小牧、函館、函館美原の4教会から19名の参加がありました。

今回のブロック集会は、「～あなたの教会のアウトリーチ～今、あなたの教会ではどのような方に伝道していますか？また、あなたの教会では、特にどのような方々のケアをしようとしていますか？」という、道南、道央、道東それぞれ同一テーマで分かち合い、ユニケを通して、各ブロック集会の様子を伝え、全道の姉妹方と分かち合い、協力伝道へと繋げる事が出来たら、という願いからの企画です。

道南はアドバイザーとして、函館美原教会の福田牧師に立って頂きました。

開会礼拝では、福田師より、主イエスの姿からアウトリーチの本質をマタイ9章より取り次いで頂きました。その後、それぞれの教会の現状を発表して、午後は、それぞれの教会からの質疑応答やディスカッションの時間

を持ちました。高齢化に伴う次世代への信仰の継承、国際教会としての働き、また、それぞれの教会の伝道の取り組みなどが話題として挙がりました。

特に印象的だった事は、伝道の本質についてです。

私たちは、何か特伝やクリスマス等、イベントがある度、その時だけ教会に人を誘う傾向があるのではないのでしょうか。そうではなくて、まずは礼拝を第一とする事が、何よりの伝道の姿勢であるという気持ちを持っていなければならない。

主を心から喜ぶ礼拝者として、日々新たにされたいと思う集会となりました。



休憩時のディズニー体操

生活の場は変われど成す事は変わらず「福音の証し」です。同信の諸兄姉と共にこの地の福音宣教の業に立たされるように召された者として、北海道地方連合の皆様とも結ばれる新たな協力伝道・協働が主の豊かな祝福に

満ちたものとなる事を期待し、どうぞ、これからのお交わりをよろしくお願ひいたします。

～帯広教会の牧師就任感謝礼拝の様子～

7月17日（月・祝）、帯広教会では川内裕子牧師・川内活也牧師の就任感謝礼拝が行われました。道内外から133名の出席があり、西南学院大学名誉教授の小林洋一先生が「ときには祭司のように」と題し奨励されました。また連盟から浦瀬佑司理事、連合から田森茂基会長、十勝牧者会から武田彰会長が代表して祝辞を述べられました。帯広教会と両牧師がこれから密に協働して地域伝道、協力伝道、細やかな牧会に取り組まれることを祈りたいと思います。



● 2017/5/22 「隣人に出会う旅」フィールドワークの報告・感想



7/27（木）～31（月）に開催されます連盟主催「少年少女・隣人に出会う旅～旭川～」の現地スタッフとしてのお手伝いのためHYP

委員会に係ることとなり、事前学習を兼ねフィールドワークに行ってきました。

2015年に行われた日高での連合による「少年少女・青年会合同春の修養会」でもアイヌ民族・アイヌ文化について少し学んでいたのになんとなく知った気でしたが、旭川では全く別の民族・文化に出会ったような衝撃を受けました。それぞれの土地での歴史的背景によって違う民族・文化のようになってしまったのでしょうか。そのようなことも考えさせられたフィールドワークでした。

旭川教会に集合の後礼拝を持ち、川村カ子トアイヌ民族記念館に向いました。そこで太田マルクさんに旭川の歴史を伺い、また太田さん自身のアイヌ民族としての思いや考えもお聞きすることができました。その後常盤公園にあるアイヌ墓地を訪ねアイヌ民族のお墓に対する考えなどをお聞きしました。二日目には旭川市博物館を三浦忠雄さんの解説をお聞きしながら、ますますこれらのアイヌの歴史と民族・文化に興味を惹かれ推薦していただいた『アイヌ学入門』（瀬川拓郎著）を購入し読んでいくところです。 定免直末（リビングホープ教会）

「キリスト教による北海道の開拓伝道の歴史には、“アイヌのキリスト教化”という側面があった。バプテストは、この歴史にしっかり向き合えて来なかった。従来の伝道において、目に留めてこなかった視点を大切にしたい。」田森師によるそんな礼拝メッセージから始まったフィールドワーク。1日目はアイヌカト子記念館の太田満さんから、アイヌの歴史の概要を聞いた。話は江戸時代にまで遡り、余りにも壮大で、すべてを振り返ることはできない。いくつかに心に残った事を抜粋する。「現在、アイヌは観光としてメディアに登場する。しかし、アイヌの日常はそこから学ぶことはできず、彼らの本当の姿に触れることは容易ではない。…近年までの北海道のアイヌの思想・文化・教育には、明治期以降のキリスト教による布教が、良くも悪くも影響を与えているので、それ以前の元来のアイヌ思想・文化を辿るのは難しい。昔のアイヌについて、“狩猟採集民族”というイメージも広まっているが、実際はそうではなかった。狩猟採集の他に、自給自足、海外との交易も行ってた。」今まで知ることのなかったアイヌの人々の姿があることを知った。「隣人とは誰ですか？」とイエスに質問した、あの青年の問いを思う。私は、隣にいる人が、どんなルーツを持ち、どんな人生を経て、今私の隣にいるのか、ほとんど知ろうとせずに生きている。日本社会自体、お互いが何者か分からない、知ろうともしない社会にどんどん変容している。「隣人を愛せよ」という主の教えに生きようとする時、まずは相手を知ること、そして自分を知ることが大切なのだと思った。 武田増光（リビングホープ教会）

